

図画工作科学習指導案

2年2組 30名 指導者 福島 光 二

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 題材の導入段階で子どもたちの思いを存分に高める手立てをすることで、子どもたちはつくりたいものへのイメージが広げ、見通しをもって主体的に学ぶためのスタートが切れるのではないか。

1 題 材 きって、めくって、カラフルフィッシュ！（つくりたいものをつくる）

2 目 標

つくりたい形に関心をもち、カッターナイフの正しく安全な使い方に慣れ、切り込みを工夫してつくりたい形にすることができるようにする。

3 題材の評価規準

- 紙に切り込みを入れて、つくる活動に興味を示している。 【造形への関心・意欲・態度】
- どんな切り方や開き方をするか、どんなものをつくるか考えることができる。 【発想や構想の能力】
- カッターナイフの正しく安全な使い方に慣れ、自分の思いついた形や模様を工夫して作り出すことができる。 【創造的な技能】
- つくった作品を友達と見せ合い、楽しい表し方に気付き、自分の気持ちを話したり、聞いたりすることができる。 【鑑賞の能力】

4 題材について

(1) 題材の価値

本題材は、カッターナイフを使い、切ったり、めくれるようにしたり、切った部分から重ねたものを見せるようにしたりなど、いろいろ思いついたことを試しながら、そこから発想し、想像を広げてつくっていくことをねらいとしている。

この時期の子どもたちは、高学年のように計画的に見通しをもって造形活動に取り組むというよりは、つくりながら考え、考えながらつくるといった試行錯誤を繰り返す活動をする。また、関心のあるものに対しては、手にしたり触ったりして試みるが多い。そのため、友達の表現を見ることも好きである。同時に、自分のつくった作品を友達に見てもらいたいという願いを持っている。そこで、友達と作品を鑑賞し合う場を設けることで、なお一層の製作意欲を高めるようにする。

本題材の価値は、カッターナイフの特性を楽しみながら、つくりたいもののイメージをふくらませる点にある。すうっと切れ、思うように切り込みの形をつくりたいことができる独特の快感から、子どもたちは自由にイメージを広げることができる。見たことのないうろこの模様を想像しながらつくっていくことで、自分の思いを表現していくことの楽しさを存分に味わわせたい。

(2) 子どもの実態と指導

本学級の子どもたちは、絵をかいたり、ものをつくったりすることが好きな子どもが多く、休み時間になると、自分の作品を使って遊んだり、さらに工夫したりして過ごす様子が見られる。そのため、図画工作科の授業を楽しみにしており、自分で工夫をしながらつくすることに自信をもち、つくり出す喜びを感じている子どもが多い。

しかし、子どもたちの中には、「できました。」とすぐに作品を持って来る子どもがいる。持ってくる作品は事前の指導内容が生かされていないものである。原因は、学年に応じた学習内容のよさに気付けなかったり、発想を豊かにできなかったりするからである。また、製作意欲を持ち続けることができない学習計画にも原因がある。学年に応じた学習内容のよさを理解し、じっくりと作品と向き合い、イメージを高めながら次々と工夫できる子どもを育てるために、導入での意欲付けと意欲が持続するような学習計画の工夫をし、学年に応じた学ぶべき学習内容を負荷として与えるべきである。

今回の学習で使うカッターナイフについての印象を聞くと、クラス全員が嫌いだと答えている。理由は、「怪我をしくない。」「こわいものだ。」とあり、これまでに大人から「危険なものだから触るな。」という指導を受けたことに原因があることが分かっている。そのため、ほとんどの子どもたちがカッターナイフをつかった経験がない。そこで、この機会に正しく安全な使い方を教え、楽しみながら活動する中でカッターナイフの便利さに気付かせる指導をしていきたい。そして、カッターナイフを使えるようになった喜びと、切り込みを入れることで変化する作品の面白さから夢中になって取り組み始め、製作途中の作品に付け足したいものをイメージして、工夫しながらつくり続けていくのではないかとと思われる。

また、友達の表現のよさを自分の表現に取り入れられる子どもを育てるために、作品を鑑賞する視点を教え、製作途中でも自由に作品を鑑賞し合う場を設ける。そして、友達の表現のよさに気付き、自分の作品をさらによりよいものに工夫できるように、雰囲気づくりを大切にしていきたい。

5 指導計画（総時数5時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
思いをもつ	<p>1 参考作品の魚のうろこが、同じ色と形であることに気づき、よりよい魚をつくりたいという興味をもつ。 【関：紙に切り込みを入れて、つくる活動に興味を示している。】</p> <p>2 題材の学習のめあてをとらえる。 きれいな魚をつくって、〇〇つり大会をしよう。</p> <p>3 どのようにして学習を進めていきたいか考える。 うろこの模様が思うように作れなかった作品を見せ、カッターナイフで紙に切り込みを入れる練習が必要であることに気付かせる。</p> <p>4 カッターナイフで紙に切り込みを入れる練習をする。</p>	1 (本時)
ふくらませる 思いを	<p>5 自分なりのうろこの模様をつくれるようになるための練習をする。 【想：どんな切り方や開き方をするか、どんなものをつくるか考えることができる。】 つくりたいうろこの模様のイメージがもてるように、できるだけ多くの子どもの作品を紹介し、イメージを膨らませることができるようにする。</p>	1
自他のよさに気づく 思いを表現する／	<p>6 自分の思いに合わせて、技法を工夫して魚をつくる。 【技：カッターナイフの正しく安全な使い方に慣れ、自分の思いついた魚を工夫して作り出すことができる。】 よい発想をしている子や技法を工夫している子を賞賛することで、その工夫やよさを全体に広げ、子どもがより主体的に、のびのびと思いを表現できるようにする。</p> <p>7 自分の表現を振り返って、もっと工夫したいことに気づき、さらに活動を続ける。 自分の表現を言葉で説明することが困難な子には、ワークシートを見ながら振り返らせ、製作意図の確認をするように助言する。 【技：カッターナイフの正しく安全な使い方に慣れ、自分の思いついた場面を工夫して作り出すことができる。】</p>	1 1
新たな思いをもつ	<p>8 みんなで釣り大会をして遊び、互いの作品のよさに気づき、話し合う。</p> <p>9 鑑賞活動を通して友達の表現のよさに気づき、これからの自分の表現活動に生かそうとすることについて、自分の考えをもつ。 発想のよさや技法の工夫など、鑑賞する視点を確認し、そこに気を付けて見るように助言する。 【鑑：友達の表現を見ながら、よさを話し合ったり味わったりする。】</p>	1

6 本 時（1／5）

(1) 目 標

釣り大会に向けての見通しをもち、カッターナイフを正しく安全に使うことで作品をつくりたいと思うことができるようにする。

(2) 評価規準

正しく安全なカッターナイフの使い方に興味をもって活動している。【造形への関心・意欲・態度】

(3) 指導に当たって

これまでに子どもたちは、様々な道具と出合ったり、またそれを使えるようになったりしたことで、表現することの楽しさを味わってきている。本題材においても、カッターナイフの使用を積極的に促すことで、道具を使うことによって思いを自由に表現する楽しさを味わわせたい。

思いをもつ過程では、魚釣りをし、同じ色と形の魚しか釣れないことに気付かせ、「他の種類の魚も釣れると楽しいのに。」「きれいな模様の魚をたくさんつくりたい。」という思いを高めるようにする。

思いをふくらませる過程では、どのように活動を進めていきたいか、大まかな流れを話し合う。ここでは、みんなで魚釣り大会をするために、きれいな魚をつくりたいという思いをもたせるようにする。それから、思うようにうろこの模様をつくれなかった作品を見せ、正しく安全なカッターナイフの使い方を身に付けたいという思いをもたせる。

思いを表現する／自他のよさに気づく過程では、正しく安全なカッターナイフの使い方の指導をした後、ワークシートを使って切り込みを入れる練習をさせる。安全に気を付けながら正しく切り込みを入れている子どもを賞賛することで、そのよさを全体に広げるようにする。すうっと切り込めない子どもがいたらみんなでその原因を考え、正しい切り方を確認して進めていく。

新たな思いをもつ過程では、自分の工夫と友達の作品のよさや頑張ったことを話し合い、お互いに認め合う関係をさらに深める。また、学習計画をもう一度見せ、題材の学習の目標と今後の活動の見通しを再確認することで、子ども自ら意欲的に学習を進める力を高めたい。

時	過程	主な学習活動と教師の手だて・評価
5	思いをもつ	<p>1 教師や代表の子ども魚釣りをしている様子を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごい。ぼくもしたいなあ。 ・うろこの模様がきれいだな。 ・他の魚はいないのかな。 ・うろこの模様が同じだぞ。 ・いろんな魚をつくらないと。 <p>2 題材の学習のめあてを立てる。</p> <p>きれいな魚をつかって、〇〇つり大会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はやく魚釣りをしたい。 ・きれいな魚をつくりたい。 ・たくさん魚をつくらう。
10	思いをふくらます	<p>3 本時の学習のめあてをたてる。</p> <p>きって、めくって、カラフルフィッシュ！の学習計画をたてよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな模様の魚をつくらう。 ・こんな魚がいたらいいな。 ・カッターナイフを使えるようにならないと。 <p>4 思うようにうろこの模様ができなかった魚を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カッターナイフの使い方って難しいな。 ・こわいけどできるようにになりたいな。 ・練習しないとイケないな。
23	思いを表現する／自他のよさに気付く	<p>5 正しく安全なカッターナイフの使い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刃は出し過ぎてはいけないね。 ・鉛筆を持つように持てばいいね。 ・手の置き方に気を付けよう。 ・曲がった線は紙を回しながら切れればいいのか。 <p>6 ワークシートを使って切り込みの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力を入れすぎたらいけないな。 ・何度もなぞって切れればいいね。 ・切りすぎないように気を付けないといけないな。 ・すうっと切れて気持ちがいいな。 ・カッターナイフって便利なものなんだな。
7	新たな思いをもつ	<p>7 今日の学習を振り返り、自分の工夫したことや友達の頑張ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、カッターナイフの持ち方に気を付けて切りました。 ・〇〇くんは、集中して切っていました。 ・〇〇さんは面白い形のうろこをつくっていました。 <p>8 学習計画をもう一度見て、目標を再確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しみだなあ。 ・はやく魚釣りがしたいな。 ・いろんな形や模様のうろこできれいな魚をつくりたいな。

実際に教師や代表の子どもが魚釣りをしてみせ、魚釣りをしたいと思わせるとともに、同じ魚しかいないことに気付かせ、きれいな魚をつくりたいという思いを高める。



魚釣り大会という目標をはっきりさせ、そのためにどのような活動をしていけばいいのか考えさせる。



子どもに意見を聞いて、めあてを立てるようにする。



大まかな学習計画を立てることで見通しをもたせるようにする。



切り込みすぎてちぎれそうなるころ、切り込みが少なく開けないころ、切り取れてしまったうろこを見せて、うろこの模様づくりの難しさに気付かせる。



カッターマットを使うこと、刃の出し方、カッターナイフの持ち方、支える手の位置、切り方など実際に切ることをまねさせることで確実に正しい使い方の技能を定着させる。



※ 正しく安全なカッターナイフの使い方に興味をもって活動している。(活動・ワークシート)

- 正しく切り込み、切り込みができた子どもには、自分でうろこの模様を考えてつくってみよう伝える。
- 活動が停滞している子どもには、紙の動かし方、手の置き方、力の入れ方などを確認しながら一緒に活動する。

すうっと切り込めない子どもがいたらみんなでその原因を考え、正しい切り方を確認して進めていく。



自分の活動を振り返らせることで、工夫できたところやこれから工夫したいところ、友達の頑張りに気付かせ、お互いに認め合う関係を深めたい。



学習計画をもう一度見せることで、題材のめあてと学習の見通しを再確認するとともに、いろんなうろこの模様を持った魚をつくりたいという思いを高めたい。

